

新年ご挨拶

経済産業省 商務情報政策局情報産業課長

金指 壽



冒頭に、本年1月1日に発生した令和6年能登半島地震において亡くなられた方々に心からお悔やみを申しあげるとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。

世界は引き続き、大きな変革のうねりの中にあります。昨年5月、新型コロナウイルス感染症は5類に移行されましたが、コロナ禍を契機として急速に進んだデジタル化の動きは、止まるどころか現在も加速的に進展し続けており、その重要性は増す一方です。

日本経済をみると、今、長年続いたデフレ構造から新しい経済ステージへと移っていく、千載一遇のチャンスを迎えています。昨年は、賃上げや設備投資がともに30年ぶりの高い水準となるなど、「潮目の変化」が生まれました。今年こそ、こうした変化の兆しを逃すことなく、「コストカット型経済」から「投資も賃金も物価も伸びる成長型経済」への転換を必ず実現しなければなりません。

政府の大胆な支援を呼び水として民間からの投資を呼び込み、イノベーションによって生産性を上げ、結果として高い水準の賃上げを実現する。そうした新たな経済構造、「適温経済」への転換が求められている中、この転換に向けたドライビングフォースの一つがDXです。

デジタル化が急速に進む中で、昨年、「ChatGPT」をはじめとする「生成AI」が大きな話題となりました。生成AIはインター

ネットにも匹敵する技術革新とも言われ、人類の歴史に大きな変化をもたらそうとしています。今後、言語の分野にとどまらず、ロボット、創薬など様々な分野で変革をもたらす、世界の経済社会を変えていく可能性がある技術であり、人手不足などの課題を抱える日本にとっても今後の経済成長を左右するものとなっています。

生成AIの開発・利活用を促進するにあたっては、大規模な計算資源が必要不可欠であり、その確保が重要です。このため、経済産業省は、令和5年度補正予算にて、AI用計算資源関係の予算として約1,900億円を確保しました。AI用計算資源の整備に加えて、大規模言語モデル(LLM)をはじめとした基盤モデル開発の加速化を行っていきます。

一方で、AIに関する様々なリスクも指摘されている中、イノベーションの促進と同時に、一定の規律も必要です。国内のAI開発力強化を図りつつ、本年1月にはAIの安全性評価機関となる「AIセーフティーインスティテュート」を立ち上げる予定であり、AIが抱えるリスクへの対応もしっかりと進めていきます。

また、AIの基盤となる半導体についても、我が国半導体産業の復活に向けて、近年実施してきた迅速かつ大胆な政策を引き続き推進すべく、今般の補正予算では、半導体関係で総額約2兆円の予算を措置しています。具体的には、先端半導体の国内投資の促進や次世代半導体の量産実現のための技術開発、設計、人材育成に対

する支援などを実施します。さらに、経済安全保障の観点からは、半導体そのものに加えて、我が国半導体産業の競争力の要であり、グローバルサプライチェーンを支える存在である半導体製造装置や部素材の生産基盤の強化に向けた支援を引き続き講じます。

これまでも組込みソフトウェア産業分野は、自動車のリアルタイム制御等の高い技術力により、我が国の産業を支えてきました。昨今のイノベーションの代表格である生成AIをはじめとして、新たなデジタル技術が出てきている中、益々、組込みソフトウェア産業分野の重要性が高まってくるとともに、新たな時代への対応を求められる変革期です。エッジ側の大量なデータを迅速に顧客価値に結び付けるために、リアルタイム処理の強みを活かしながら、我が国のデジタル産業を発展させることを期待しております。

今年は、十干十二支の「甲辰」であり、陽の気が動いて万物が振動することで活力旺盛となって大きく成長し、形が整う年になる、と言われています。経済産業省としては、組込みソフトウェア産業の皆様が天の高みに昇る龍の如く、大いなる成長・飛躍を遂げるための前向きな挑戦を引き続き全力で後押ししてまいります。

最後に、産業界の皆様のごさらなる発展と、本年が素晴らしい年となることを祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。